

蹄耕法による山林放牧を取り入れた 土地利用型酪農経営



福島県二本松市
渡辺 裕市



地域の概況 ~二本松市塩沢地区~

- ・二本松市西部、安達太良山麓に位置し、
標高は約650m、年間平均気温は 約11.7°Cである。
(市内平均気温)
- ・農業状況
地域内の認定農業者数は、33名。
主な経営類型は、水稻+野菜である。
塩沢地区のキュウリは、地域特産物となっている。
- ・家畜の飼養状況
乳用牛 1戸 約37頭
肉用牛 4戸 約520頭
(普及所調べ)

経営概況

- ・経営類型 酪農専業
- ・飼養頭数 経産牛 23頭
育成牛・子牛 10頭
- ・草地面積 採草地 1,254a
放牧地 270a
うち750aは、借地
経産牛1頭あたり採草地面積 約55a
- ・労 力 本人、母、雇用(パート)

自給飼料生産の経緯

… 昭和53年～平成5年 …

木の根坂酪農振興組合(構成員:酪農家5件)にて、
機械の共同利用、共同作業(作業面積 30ha)
昭和60年にロールベーラーを導入



… 平成5年以降 …

組合構成員の酪農家5軒が次々と酪農を廃業。
条件の良い農地を集積し、個人での作業体系となつた。

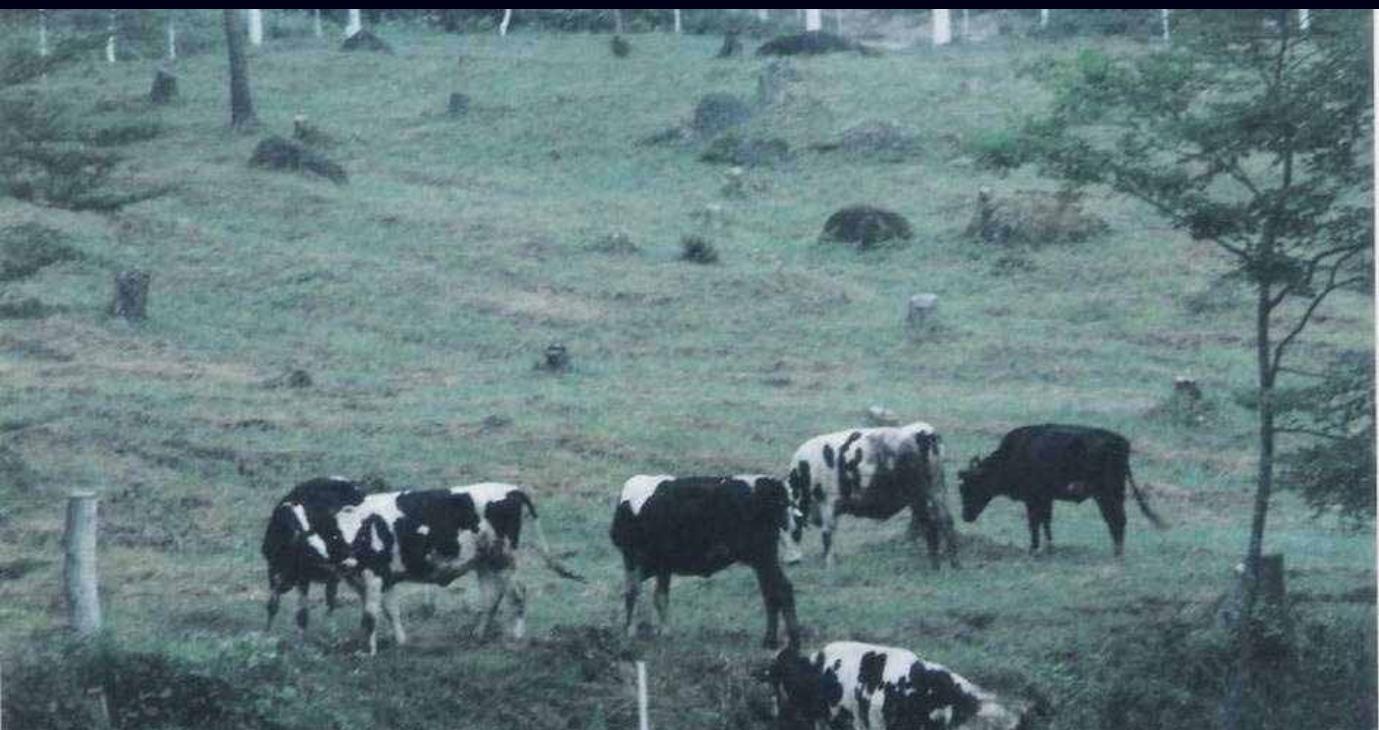
「労力不足」が、課題に…

自給飼料生産の特徴

1. 山林を蹄耕法により、放牧地化し育成牛を放牧している。(2.7ha)
2. 標高650mの高原地帯の立地条件を生かし、
チモシーを導入。刈り取り時期の分散化、刈り遅れ
や2番草の品質、嗜好性低下に対応。
3. 耐寒性、越冬性に優れた品種を導入している。
4. テッダーによる反転を行わない。

育成牛の放牧





自給飼料作付内容

・オーチャード・クローバー混播 754a
・オーチャード・チモシー・

クローバー混播 500a

(放牧地は、上記にペレニアルライグラスを混播)

調製方法：ロールラップサイレージ

採草地の状況



堆肥化の概況

<施設>

- ・木造堆肥舎 200m²

平成16年度畜産環境保全施設緊急整備事業(県単)
により導入

- ・尿溜 93m³

<方法>

- ・ローダーによる切り返し(毎月2~3回)

<副資材と1ヶ月の使用量>

稻わら : 4.4 t(堆肥交換)

モミガラ : 7.5 m³ (堆肥交換)

オガクズ : 1.2 m³(購入)

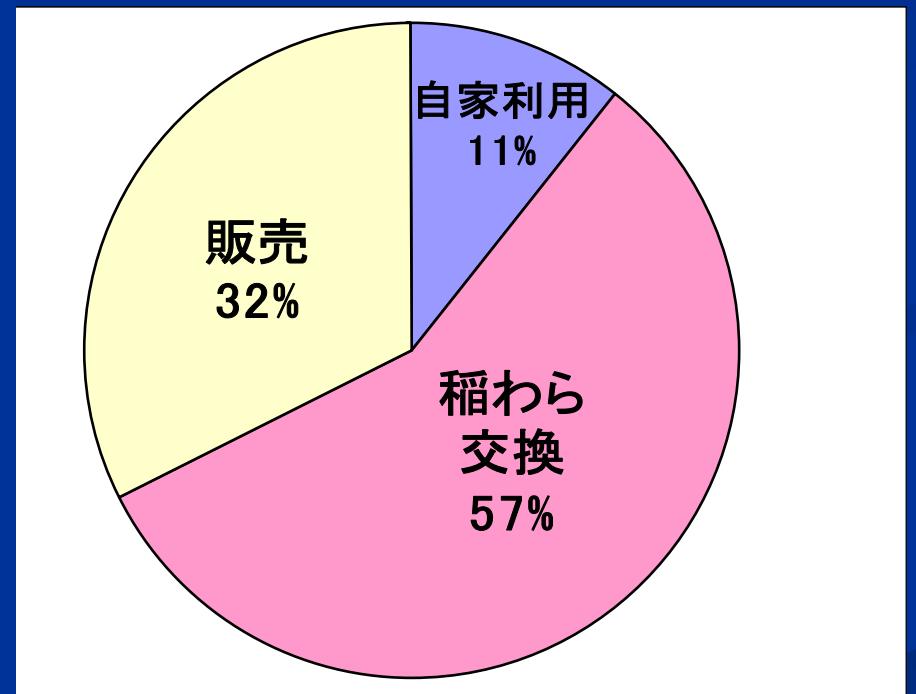
堆 肥 舍



堆肥の利用状況

<自家利用> 約10%
2t車 15台
(主に草地への散布)

<経営外利用> 約90%
・稲わら交換 2t車 79台
・販 売 2t車 52台
野菜農家など 11戸 45台
水稻農家 3戸 7台



堆肥の利用状況]

堆肥の販売について

<価格> 7,000円/2t

<販売先の作付け品目>

露地キュウリ、アサツキ、水稻

<販売時に注意していること>

- ・堆肥の成分分析を実施して、成分の特徴を把握し、利用者に伝える。
- ・分析結果表と領収書などを必ず、渡す。
- ・利用者の要望に応じた堆肥を作るよう努めている。

肥料取締法に基づく表示など

肥料取締法に基づく表示

肥料の名称	渡辺 堆肥
肥料の種類	たい肥
届出をした都道府県	福島県第1023号
表示者の氏名又は名称及び住所	渡辺 栄市 二本松市木ノ根坂140
正味重量	2,000キログラム
生産した年月	平成 年 月
(原 料)	牛ふん、糞わら、もみがら
備考:	1 生産に当たって使用された重量の大きい順である。
主要な成分の含有量等(現物あたり)	
窒素 全量	0.4%
りん酸全量	0.4%
加里 全量	0.3%
炭素窒素比	1.5

毎度ありがとうございます。品質基準値を表示しますのでご参考ください。

基 準 項 目	基 準 値	目 標
有機物 (%)	乾物当たり 60%以上	57.1 %
C/N比(炭素-窒素比)	30以下	15.4 %
窒素(N)全量 (%)		1.23 %
磷酸(P2O5)全量(%)	乾物当たり 1%以上	1.17 %
加里(K2O)全量 (%)		0.85 %
石灰 (%)		0.65 %
苦土 (%)		1.63 %
水分 (%)	現物あたり 70%以下	64.80 %
PH (%)		

渡辺 農場



FAX

携帯

納品・請求書

納品書兼請求書

様

渡辺 農場 渡辺 裕市

〒 964-0087

二本松市木ノ根坂

☎

FAX

下記のとおり納品申し上げます。

配達 月日	御買上 商品名	数量 (1台)	単価 (6,667)	消費税 (333)	合計 (7,000)	備 考
12/22	牛糞堆肥	5 台	33,335	1,665	35,000	
	合 計	5 台	33,335	1,665	35,000	

以上、35,000円 請求致します。

平成19年12月22日

今後の課題 夢



- ・耕畜連携の維持
- ・省力的な草地管理の実践と景観維持
- ・放牧酪農の実現
- ・北海道への家族旅行